

2008年度受託研究概要報告

神戸学園南地区

平成20年度 舞多聞倶楽部運営等業務

研究メンバー

齊木崇人	大学院芸術工学研究科教授
佐々木宏幸	デザイン学部環境・建築デザイン学科准教授
川北建雄	デザイン学部環境・建築デザイン学科教授
谷口文保	先端芸術学部造形表現学科講師
宮代隆司	芸術工学研究所特別研究員
橋本大樹	芸術工学研究所特別研究員

委託者

独立行政法人 都市再生機構 西日本支社
神戸西開発事務所

1 緑地ワークショップ実施

1-1 緑地ワークショップの記録

「ガーデンシティ舞多聞」に住まう人々を対象とした、UR都市機構と神戸芸術工科大学主催の「緑地管理ワークショップ」は、「舞多聞」の共有財産である、旧舞子ゴルフ場の斜面緑地が残された「学園南緑地」と、隣接する「舞多聞まちづくり館」をフィールドとし、継続的に開催されているワークショップである。

このワークショップは、1「学園南緑地の緑地管理」と2「舞多聞ネイチャーアート」の2つのプログラムが同時に開催されている。

プログラム1の「住まう人自らの手による共有財産（緑地）の管理」、プログラム2の「身近な自然物を用いたアート作品づくり」、これらを通じて、「コミュニティのつながり」「自然とのふれあい」「アートへの関心」を深めることを目的としている。

1-1-1 学園南緑地の緑地管理

はじめに、「舞多聞まちづくり館」にて、「学園南地区の貴重種について」のレクチャーが行われた。舞多聞には、「キキョウ」などの貴重種植物が残されている。今回は、新たに発見された貴重な生き物が紹介された。

その後、「学園南緑地」に移動し、貴重種の移植と「ヒメガマ」を守るために、溜め池に繁茂した葦（よし）刈りを行った。

最後に、昨年、地区内から種を採取し、栗本氏の

事務所で育てられた「キキョウ」の苗が、参加者に送呈された。古くから土地に根付いてきた自然が、各戸の庭に復元されることになる。

1-1-2 舞多聞ネイチャーアート

「自然と出会う、森の絵画」
「学園南緑地」の溜め池に繁茂した葦（よし）を束ねてつくった筆を用い、「風」をテーマとした抽象絵画を制作した。

1-2 緑地ワークショップの記録

2008年11月23日（日）、「第1回 舞多聞クリーンアップ活動」が行われた際に、「舞多聞エコ倶楽部」会員募集の呼びかけと、第4回緑地管理ワークショップが行われた。

都市再生機構では、「ガーデンシティ舞多聞」のまちづくりのテーマとして、「環境共生型まちづくり」「市民協働型まちづくり」「安全安心のまちづくり」を掲げており、エコ倶楽部については、みつけの住民の方々により、2006年3月に「みつけエコ倶楽部」が発足していたが、今回の「クリーンアップ活動」を契機に、対象を舞多聞全体に広げ、本格的に活動を再開することになった。

まちづくり館には、世話人の方が実際に栽培されているハーブが持ち込まれ、ハーブの一種「レモングラス」を入れた温かいハーブティーもふるまわれた。

また、「学園南緑地」と「まちづくり館」をフィールドに「自然とのふれあい」「コミュニティのつながり」を目的として、平成19年6月より始まった緑地管理ワークショップの第4回目も同時に開催された。内容は落ち葉による腐葉土づくりである。「クリーンアップ活動」で集められた落ち葉を、UR都市機構がまちづくり館西側に準備した木の囲いに入れた。約1年で腐葉土になり、たい肥として再利用されることになる。

「舞多聞エコ倶楽部」には現在14名の方たちが参加されており、「環境共生型まちづくり」を目指した、これからの活動が期待される。

2 舞多聞倶楽部ワークショップ実施

2-1 舞多聞倶楽部ワークショップの記録

舞多聞倶楽部第21回公開講座「自然と出会う、動物をつくろう」が行われた。当日は天候にも恵まれ、19名の方々にご参加があった。

このワークショップは、「ガーデンシティ舞多聞」でらいけプロジェクト建設予定地に植生している樹木をつかって、動物の造形物をつくるプログラムで、参加者の方々に、アートを通じて、てらいけプロジェクト建設予定地の自然環境に親しんでもらうことを目的として企画された。

このプログラムは2回シリーズであり今回は、プログラム1「木を切ろう」の日で、家族で協力してのこぎりで木を切る作業である。

2-2 舞多聞倶楽部ワークショップの記録

舞多聞倶楽部第21回公開講座「自然と出会う、動物をつくろう」のプログラム2「動物をつくろう」が行われ9名の参加があった。

プログラム2「動物をつくろう」の日で、家族で協力し、プログラム1「木を切ろう」で採取した木や、当日採取した木や枝を使い、動物を作った。

今回、皆さんの手で作られた動物たちは、舞多聞の内部だけでなく、外部にも展示される予定である。このてらいけの木々から生まれた動物たちが神戸のまちへと飛び出す物語は、絵本としてまとめられる予定である。

3 みつけ南プロジェクトの実践

3-1 みつけ南連絡係

2007年3月の第4回コミュニティワークショップで、「グループ申込型宅地募集」ゾーンのA～D各グループから1名ずつ計4名の連絡係が選出された。その後、「一般宅地分譲」「民間事業者分譲」ゾーンの入居者数が一定数を越えた2008年2月、みつけ南全体で、「向こう三軒両隣」を基本とした、11～13世帯の7つのグループに再編成し、2008年2月24日の3ゾーンの「顔合わせ会」(後述)で、改めて各グループから1名ずつ計7名の連絡係が選出された。連絡係は、ルールの運用（協定の事前申請の審査等）、自

治会の設立準備（後述）、街区公園（舞多聞みつけ南公園）の管理（後述）などの、みつけ南のエリアマネジメントを担っている。

3-2 「まちづくり」「コミュニティづくり」のイベント開催

2008年2月24日、先行して入居した「グループ申込型宅地募集」ゾーンの住民が中心となって、3ゾーンの住民の「顔合わせ会」が舞多聞まちづくり館で行われ、35世帯110名が集まった。

当日は、途中で談笑の時間を設けながら、主旨説明、まちづくりの経緯紹介、生活情報(ゴミの出し方等)のアナウンス、連絡係選出(前述)、等が行われた。

3-3 自治会設立に向けて

現在、みつけ南連絡係は、自治会設立の準備を進めている。今後、UR都市機構と神戸芸術工科大学のサポートを得ながら、また、みつけ南プロジェクトの経験に学びながら、2008年内の設立総会開催に向けて、自治会設立準備会の立ち上げ、設立趣意書・自治会規約策定、などを行っていく。

3-4 まちづくりアドバイザーの派遣

みつけ南連絡係は、自治会設立次第、「まちづくりアドバイザー」の派遣を、神戸市の「こうべまちづくりセンター」に依頼する予定である。アドバイザーは、住民が「スペースデザイン」を、さらに住民主体で「コミュニティづくり」や「エリアマネジメント」を実践する際の、デザイン提案やアドバイスなどを行う。連絡係は、既に神戸市の登録アドバイザーであり、「ガーデンシティ舞多聞」をサポートしつづけている齊木の指名を予定している。

3-5 舞多聞みつけ南公園の管理

連絡係は、みつけ南プロジェクトの南東部にある「舞多聞みつけ南公園」において、神戸市「美緑化ボランティア」の補助（年間2万～3万円）を得て、市民花壇の管理を行う予定である。具体的な活動として、公園の除草作業やゴミ拾い、水遣り当番の確定等が予定されている。

研究協力者 木下玲子、任亜鵬、李文静、柳川翔太、頼文波、加藤慧、藤巻泰輝、柳川実理、(学部生)